

令和4年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	学び合いを通じた主体性と独自性育成プログラム	
実施組織	信州大学繊維学部化学・材料学科	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
取組責任者(所属)	木村 睦・服部義之(繊維学部)	
取組の目標	「学び合い」を通じ、全ての学生が主体的に大学での学びに取り組み、さらにそれぞれの学生が多様な考えを持つことを認識させる。	
<p>1. 目標達成のために行った活動と、その成果</p> <p>※活動、成果ごとに番号を付けて箇条書きで記載する。 ※成果の詳細は必要に応じて別添としてもよい。</p>	<p>(一般化学 I での取り組み)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動画を使った事前個人学習：各回の講義の学習目標を含む 30 分程度の講義サマリーを動画として 1 週間前に配信した。学生には動画の講義前の視聴と指定した教科書の範囲での事前学習を行わせた。</li> <li>2. 講義：講義サマリーの復習と理解が難しいポイントに関し 45 分程度で講義を行った。その後、提示した課題に関し、班で学び合いを実施した。</li> <li>3. 課題提出</li> <li>4. 理解度小テストの実施</li> </ol> <p>(新入生ゼミナールでの取り組み)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. SNS を活用するための環境整備と情報リテラシー教育を行った。</li> <li>2. 対面および SNS を介した学生間および教員とのコミュニケーションを行った。</li> <li>3. 目標達成に必要な要素と行動目標に関して、8 マスシートなど活用した班員との議論を行った。</li> <li>4. 行動目標の実行難易度や効果のマトリックス分析結果をもとに、より効果的な行動目標の達成手法と目標達成までのプランも議論した。</li> <li>5. 発表会を通して、プレゼンテーションスキル向上を図った。</li> <li>6. 一般化学 I で提出した課題を題材として、コピー判定ソフトを援用しレポート・論文の書き方講習を行った。</li> </ol>	
<p>2. 目標達成度に関わる自己評価、理由、今後の展望</p> <p>※a-e から該当するものを選び、その理由と今後の展望を記述</p>	<p><b>【自己評価】</b></p> <p>「取組の目標を達成できた。」について</p> <p>a: 非常にそう思う。          Ob: そう思う。          c: どちらともいえない。          d: そう思わない。          e: 全くそうは思わない。</p>	<p>(自己評価の理由)</p> <p>講義の中での学び合いを導入することによって、講義後の学生からの質問が増えた。理解度小テストを章別にしたことによって、理解度の補完ができわからないことをそのままにする学生数を大幅に減らすことができた (R3 不可 10 名、R4 3 名)。また、新入生ゼミと連動することによって、一年生前期前半において学生間のコミュニケーションを促すことができた。</p> <p>(今後の展望)</p> <p>100 名を超える講義のため、学び合いのグループの組み替えが十分ではなかった。そのため、事前学習が不十分かつ理解度が低い学生を十分抽出できなかった。大学の学びが高校までとどのように異なるのかを明確に意識させるための導入が必要で、今後導入する。</p>